

# 品詞の出現頻度の分析

学生番号 1J19E058 加藤隆聖

2021 年 6 月 3 日

## 1 結果

今回の実験では、学会講演と模擬講演で発した品詞の出現頻度を調べた。形態素解析を行い、出現頻度の割合を表した棒グラフを以下に表示する。棒グラフからは以下のことが読み取れる。どの話者も名詞の出現頻度の割合が最も高い。名詞の出現頻度は、40% ～65% となっている。また、どの話者も動詞の出現頻度の割合が名詞の次に高くなっている。

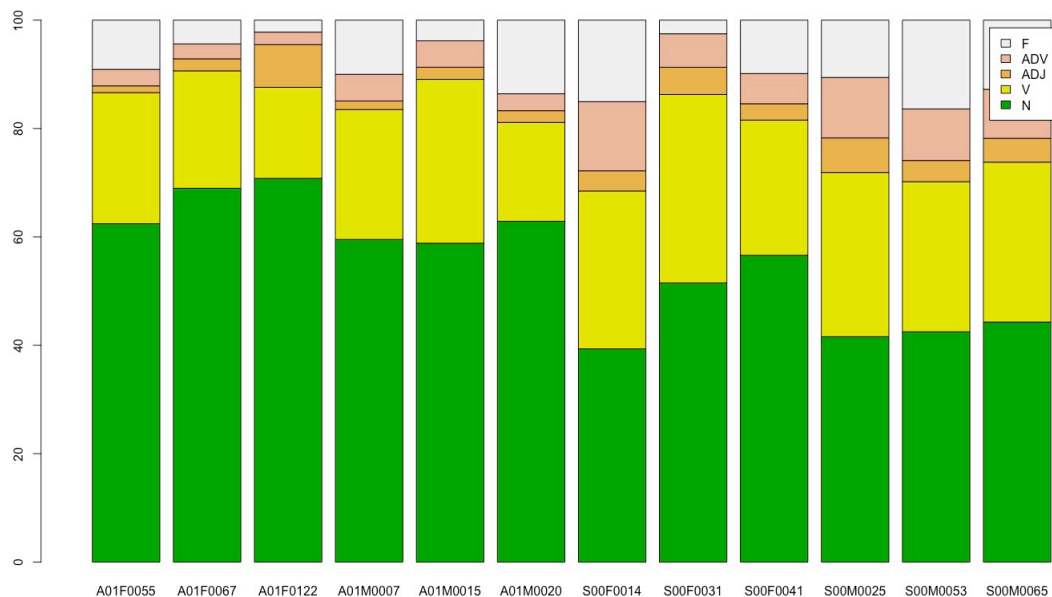


図 1 品詞の出現頻度の割合

## 2 考察

名詞の出現頻度の割合が最も高く、次に動詞の出現頻度の割合が高くなっていることは、言語の特性が洗われているのではないかと考える。物事を話しときには、ほとんどの場合一文に名詞と動詞が含まれる。そし

て、名詞と動詞は一対一対応になっていることが多い。一文の中に名詞を何度も含めることができるが、動詞を名詞よりも多く含めた文は適当な文ではない。次に、形容詞と副詞では、話者ごとに割合の高さが異なっている。副詞が多い話者と形容詞が多い話者の講演には、講演の聴者の感じ方に違いがありそうである。

学会講演と模擬講演で比較してみる。学会講演の方が名詞の出現頻度の割合がどの話者も 60% を超えている。模擬講演の名詞の出現頻度は 60% を超えている話者はいなかった。名詞の出現頻度は、学会講演の方が模擬講演よりも高いことが読み取れる。また、動詞の出現頻度では、学会講演が 20% 前後である。模擬講演では 20% ～30% となっている。動詞の出現頻度は、模擬講演の方が学会講演よりも高くなっている。これは、学会講演が公式な場であるため、動詞の割合が高くないのではないか。感嘆詞の割合では、話者ごとに割合にばらつきがある。模擬講演の方が感嘆詞が高くなると予想したが、これは模擬講演と学会講演が要因ではなく、話者ごとの話の癖に関係がありそうである。